

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	公共交通ネットワーク整備推進事業			事業番号	32-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	吉田 俊	

計 画 (P l a n)					
総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり	
		施策展開の方向	15	安全で円滑な移動ができるまちをつくる	
		施策	32	地域公共交通の充実	
予算事業名	公共交通対策事務費				
事務区分〔選択〕	☐ 自治事務 ☒ 法定受託事務		(選択してください)→	法令上の位置づけ	
事業開始年度	開始年度	令和3年度			



事業実施 (Do)

事業実施 (D o)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)			
実施方法 〔選択・記入〕	☒ すべて直接実施 ☐ 左記以外		
	☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者
	☐ 補助金		補助先
	☐ その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		令和3年度	令和4年度
	地域公共交通網形成計画の推進	計画推進	
	公共交通の利用促進	実 施	
	国と連携したノンステップバスの導入促進	維 持	
実施した取組の内容	新たな移動支援の可能性や今後の公共交通施策のあり方等について検証するため、公共交通空白地区等に居住する市民を対象に、タクシー交通を利用したモデルスタディを実施しました。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度
			令和3年度 令和4年度
	利用促進取組への参加者数	550人 (令和2年度)	550人

コスト	年度		令和3年度 実績				令和4年度 実績			
	事業費合計 (a)		278		千円			千円		
	内訳	国県支出金 ①	0		千円			千円		
		地方債 ②	0		千円			千円		
		その他特財 ③	0		千円			千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	278		千円	0		千円		
	国県支出金の内容									
	その他特財の内容	受益者負担	☐ 有 ☒ 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	0.27	人	2,209	千円		人		千円
		その他の職員		人	0	千円		人		千円
		人件費合計 (b)	0.27	人	2,209	千円		人		千円
	トータルコスト (a)+(b)		2,487		千円	0		千円		
	単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位			単位	
			対象数	101,381		人				
		総事業費／対象数	25		円			円		

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	☐ 計画どおり (A) ☒ 概ね計画どおり (B) ☐ 計画どおり進捗せず (C)	B	左記 判断 理由	新たな移動支援の可能性や今後の公共交通施策のあり方等について検証するため、公共交通空白地区等に居住する市民を対象に、タクシー交通を利用したモデルスタディを実施しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の配慮から、市民と接する普及啓発事業は中止としました。
実施水準 〔選択・記入〕	☐ 他市より高い水準で実施 (A) ☐ 他市と同水準で実施 (B) ☐ 他市より低い水準で実施 (C) ☒ 一律に比較できない事業	—	他都 市 の 事 業 内 容 等	地域公共交通は、地域のニーズや事情に応じて、多様な形態と運送サービスの普及啓発を図るものであることから、他市の事業と一律に比較できないものと考えます。
有効性 〔選択・記入〕	☒ 高い (A) ☐ 普通 (B) ☐ 低い (C)	A	左記 判断 理由	公共交通事業者などで構成する伊勢原市地域公共交通協議会が中心となって作成した地域公共交通網形成計画に基づき、各公共交通事業者との円滑な連携・協働により、事業を展開しました。また、新型コロナウイルスの感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、市民が安心して公共交通を利用することができるよう、車両の感染対策に係る補助金を交付するなど、利用促進を図りました。
効率性 〔選択・記入〕	☒ 効率的に実施されている (A) ☐ 改善の余地がある (B) ☐ 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記 判断 理由	地域公共交通協議会を市の附属機関に位置づけ、その構成員である交通事業者との連携のもと、地域公共交通網形成計画の進行管理を行うなど、持続可能な地域公共交通ネットワークの維持・充実に向け、効率的に実施しました。



取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長 による 今後の 方向性の 判断	方向性 〔選択〕	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しの上継続	事業推 進上の 課題	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公共交通の利用者は大きく減少している中、地域公共交通の維持・充実を図っていくためには、公共交通が安全で確実な移動手段であるとの認識を深めてもらう必要があります。そのため、市民、企業、行政などがそれぞれの役割を理解し、互いに協力しながら、地域公共交通網形成計画を着実に推進していく必要があります。
令和4年度の取組方針		伊勢原市地域公共交通網形成計画が令和4年度をもって期間が満了となるため、次期計画となる伊勢原市地域公共交通計画の策定に取り組みます。計画の策定に当たっては、交通分野におけるICT技術の活用等も見据えながら、新たな都市づくりや生活様式等に対応するとともに、また、観光振興等との連携を図りながら、将来にわたり持続可能な公共交通ネットワークの維持・充実を図っていく必要があります。		
所管部長による総評		公共交通は、日常生活において欠かせない重要な役割を果たしており、コロナ禍においても、エッセンシャルサービスとして必要な機能を維持することが求められました。こうした中で、本市の持続的発展に欠かせない公共交通ネットワークの維持・充実を図っていくため、公共交通事業者と連携・協力のもと、地域公共交通網形成計画に基づく取組を推進していく必要があります。		